

令和7年度 町立西和賀さわうち病院の臨床指数

令和8年5月20日 町立西和賀さわうち病院 顧問 北村道彦

公表の目的：

病院の各種臨床指数を公表することにより、職員間で病院の現状と問題点を共有し改善活動につなげる。さらに、住民、町の関係者にも病院の現状と問題点を知ってもらうことにより、住民参加、オール西和賀体制、すなわち、かつて昭和30年代に旧沢内村で深澤晟雄村長が提唱した『一体態勢』の構築を目指したい。今回は、ベンチマーキングのための参考文献として日本病院会の2024年度QIプロジェクトの全国集計結果をできる限り引用した。

1. 医事関連

1) 入院患者統計、入院患者の平均年齢（表1）（表2）

	平成 25年度	平成 26年度	平成 27年度	平成 28年度	平成 29年度	平成 30年度	令和 元年度	令和 2年度	令和 3年度	令和 4年度	令和 5年度	令和 6年度	令和 7年度
新入院患者数	204	337	425	418	380	419	414	423	443	366	372	398	445
新退院患者数	210	326	419	418	375	423	420	427	426	375	383	393	454
在院延べ患者数	4,574	6,106	9,538	9,498	9,200	9,752	9,096	8,968	9,069	8,294	6,910	7,327	7,279
入院延べ患者数	4,784	6,432	9,957	9,913	9,570	10,169	9,509	9,386	9,491	8,666	7,286	7,717	7,730
1日平均在院患者数	12.5	16.7	26.1	26	25.2	26.7	24.9	24.6	24.8	22.7	18.9	20.1	19.9
1日平均入院患者数	13.1	17.6	27.2	27.2	26.2	27.9	26	25.7	26	23.7	19.9	21.1	21.2
病床利用率 (%)	31.3	41.8	65.1	65.1	63	66.8	62.1	61.4	62.1	56.8	47.2	50.2	49.9
病床稼働率 (%)	32.8	44.1	68	67.9	65.5	69.7	65	64.3	65	59.4	49.8	52.9	52.9
平均在院日数 (日)	22.1	18.4	22.6	22.7	24.4	23.3	21.8	21.1	20.9	22.6	18.4	18.5	16.2

	平成 25 年度	平成 26 年度	平成 27 年度	平成 28 年度	平成 29 年度	平成 30 年度	令和 元 年度	令和 2 年度	令和 3 年度	令和 4 年度	令和 5 年度	令和 6 年度	令和 7 年度
入院患者総数	204	337	425	418	380	419	414	423	443	366	372	398	445
男	101	163	195	186	174	185	175	181	179	169	152	161	189
女	103	174	230	232	206	234	239	242	264	197	220	237	256
平均年齢 歳	79.1 歳	79.6 歳	80.5 歳	80.7 歳	82.1 歳	81.3 歳	82.1 歳	82.0 歳	82.4 歳	83.8 歳	83.8 歳	84.7 歳	83.5 歳

解説；令和7年度の入院患者数は445人と集計を取り始めてから最も多かった。多くの入退院に関与したスタッフに感謝します。大腸内視鏡検査時の原則入院の方針など、入院患者数増加の取り組みの効果が現れたと思います。一方、平均在院日数は、同じく統計を取り始めてから一番低く、その結果、病床稼働率は53%と昨年度と同等であった。当面は病床稼働率60%を目

標に、介護施設との連携など、病院を挙げて入院患者数増加に向けた取組を強化していきたい。入院患者の高齢化は定常化し、令和6年度の入院患者の平均年齢は85歳まで上昇したが、上述した通り、大腸内視鏡検査時の原則入院の導入の影響のためか、令和7年度は83.5歳と若干下がった。

2) 入院統計 (表 3)

	平成 25年度	平成 26年度	平成 27年度	平成 28年度	平成 29年度	平成 30年度	令和 元年度	令和 2年度	令和 3年度	令和 4年度	令和 5年度	令和 6年度	令和 7年度
自宅	148	221	235	260	251	275	251	260	266	205	217	245	297
医院(町内)	15	25	55	38	34	45	58	34	50	40	27	29	24
病院	18	41	61	50	48	55	55	56	64	57	54	44	52
施設	23	50	74	70	47	44	50	73	63	64	74	80	72
合計	204	337	425	418	380	419	414	423	443	366	372	398	445

解説：入院先では、例年通り自宅が圧倒的に多い。直近の3年間では町内の医院からの紹介が減っており、三ヶ所あった町内の一医院の閉鎖が関わっていると思われる。病院と介護施設からの入院は例年並みであった。

3) 町外からの入院数 (表 4)

平成 26 年度	平成 27 年度	平成 28 年度	平成 29 年度	平成 30 年度	令和 元 年度	令和 2 年度	令和 3 年度	令和 4 年度	令和 5 年度	令和 6 年度	令和 7 年度
4	10	20	8	13	8	8	11	15	16	8	11

解説；町外からの患者は、昨年度は減ったが令和7年度は11名で、例年並みであった。北上市、特に和賀町など近接地域からの入院受け入れは、当院の大切な使命である。基幹病院の機能維持のためにも、北上市和賀地区、横手市山内地区などの患者受け入れを積極的に行って行きたい。

4) レスパイト入院 (表 5)

	平成 30 年度	令和元 年度	令和 2 年度	令和 3 年度	令和 4 年度	令和 5 年度	令和 6 年度	令和 7 年度
延べ入院数	15名	19名	8名	15名	10名	9名	8名	11名
延べ入院日数	191日	223日	70日	191日	168日	103日	87日	96日
平均在院日数	12.7日	11.7日	8.8日	12.7日	16.8日	11.4日	10.9日	8.7日

解説：レスパイト入院は平成29年12月から開始した。令和7年度の受入数は11名と多くはなかったが、介護ニーズが高いこの町で、介護者の負担軽減のためなどのレスパイト入院は必要である。今後も医療ニーズの高い方を中心にレスパイト入院の受け入れを続けたい。令和7年度の平均在院日数は8.7日で適正と考えられる。

5) 退院統計 (表 6)

	平成 25年度	平成 26年度	平成 27年度	平成 28年度	平成 29年度	平成 30年度	令和 元年度	令和 2年度	令和 3年度	令和 4年度	令和 5年度	令和 6年度	令和 7年度
自宅	148	215	229	261	226	270	238	258	241	182	203	226	282
医院 (町 内)	1	18	26	25	11	31	38	22	29	22	16	19	16
病院	19	21	46	34	53	42	51	30	54	52	44	39	37
施設	24	34	78	61	45	46	55	74	59	70	76	71	86
死亡	18	38	40	37	40	34	38	43	43	49	44	38	33
合計	210	326	419	418	375	423	420	427	426	375	383	393	454

解説；自宅退院が圧倒的に多く、町内の医院への紹介は上述した通り町内の一医院の閉鎖もありここ3年間では減少している。病院への紹介、施設入所への退院数は例年通りであった。死亡退院数は33名であり、新型コロナウイルス感染症の影響で多かった令和4、5年度に比べ減少している。今後は町内の高齢者実人数の減少の影響が出てくるものと予想される。

6) 科別外来患者統計 (表 7)

	平成 26 年度	平成 27 年度	平成 28 年度	平成 29 年度	平成 30 年度	令和元 年度	令和2 年度	令和3 年度	令和4 年度	令和5 年度	令和6 年度	令和7 年度
内科	8,830	9,455	9,682	9,310	9,090	9,104	8,562	9,201	9,252	8,765	8,900	8,996
外科	7,059	7,068	6,457	6,540	6,382	6,052	5,653	5,561	4,638	4,211	4,174	4,211
眼科	1,343	1,354	1,318	1,235	1,256	1,216	1,036	1,235	1,197	1,185	1,226	1,198
小児科	185	262	222	221	175	176	99	73	250	121	132	108
訪問	143	103	61	82	44	80	176	186	216	210	268	237
施設 (ぶなの園)	767	684	714	748	761	709	671	736	706	742	715	704
神経内科			237	250	226	195	274	231	241	222	195	187
皮膚科	575	717										96
耳鼻咽喉科	154	338	367	340	359	351	282	337	300	326	322	321
泌尿器科	122	344	423	424	363	401	390	474	458	381	419	415
整形外科	136	472	600	651	773	1,040	992	957	846	863	840	807
腎臓内科			47	128	178	172	145	112	81	51	41	74
循環器内科		40	125	113	108	121	92	95	114	120	116	117
禁煙外来					12	17	18	3	3	7	7	12
透析	2,270	2,514	2,748	3,009	3,082	2,966	2,955	2,733	2,212	2,183	2,060	1,752

健診・特定健診・ 人間ドック	427	429	400	417	370	373	343	367	368	377	360	439
歯科	7,312	7,291	7,396	7,424	7,784	7,621	6,351	6,674	6,807	6,286	6,346	6,441
認知症外来（再 掲）	22	446	486	654	756	842						
リハビリ（再掲）	2,747	2,342	1,353	1,382	967	714	755	723	221	371	461	433
合計	29,323	31,071	30,797	30,892	30,963	30,594	28,039	28,975	27,689	26,050	26,121	26,115

解説；各科の患者数は全体的には令和6年度と同様であった。その中で、腎臓内科が増加している。当町は人口当たりの透析患者数が県平均より約1.5倍多く、今後も中央病院の腎臓内科と連携し、慢性腎臓病患者の透析回避診療を強化していきたい。平成28年度から閉診していた皮膚科は、専門医である荒川医師のご協力で再開できた。荒川医師は平成26年の当院新築移転時の県立中部病院研修医として当院で地域医療研修を行っており、ありがたい縁をいただき感謝している。

7) フットケア外来実績（表8）

		令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度
件 数	DM加算		18	23	37	38	69
	爪甲除去		132	129	198	203	216
	胼胝・鶏眼処 置		69	51	92	113	144
	総数	156	219	203	327	354	429
点 数	DM加算		3,060	3,910	6,290	6,460	11,730
	爪甲除去		7,920	7,740	11,880	13,910	15,120
	胼胝・鶏眼処 置		11,730	8,670	15,640	19,210	24,480
	総数	15,180	22,710	20,320	33,810	39,580	51,330

解説：フットケア外来は、令和2年度から実績を集計している。糖尿病性足病変を視野に入れながら、実際は白癬菌症、疣贅、巻爪などが対象の多くを占めている。患者ニーズが高い領域であり、毎年実施数が増加している。立派な取り組みである。

8) 診療単価（単位：円）（表9）

	平成25 年度	平成26 年度	平成27 年度	平成28 年度	平成29 年度	平成30 年度	令和元 年度	令和2 年度	令和3 年度	令和4 年度	令和5 年度	令和6 年度	令和7 年度
入院	24,778	21,447	23,247	23,199	22,130	23,647	24,915	31,685	33,011	33,973	35,086	35,443	36,068
外来	8,869	9,307	9,632	9,469	9,504	9,003	8,746	9,076	9,182	9,880	9,533	9,053	8,784
歯科	5,771	5,732	5,719	5,784	5,840	5,900	6,282	6,977	7,315	8,405	9,218	9,044	9,426

解説；令和7年度の入院の診療単価は上昇し過去最高であった。外来の診療単価は、コロナ感染症の高価な治療薬の影響を脱して低下した。歯科の診療単価は医科を凌駕しており立派である。

9) 経営収支（単位：千円）（表10）

区分	平成25 年度	平成26 年度	平成27 年度	平成28 年度	平成29 年度	平成30 年度	令和元 年度	令和2 年度	令和3 年度	令和4 年度	令和5 年度	令和6 年度	令和7 年度
1. 医業収益	406,948	449,400	571,779	564,906	546,432	563,322	553,306	603,523	640,103	626,635	567,803	577,771	582,658
1) 入院収益	113,336	137,949	231,467	229,973	211,784	240,463	236,916	297,391	313,310	294,409	255,639	273,510	278,803
2) 外来収益	216,331	242,798	266,626	260,584	262,444	251,280	245,521	238,031	250,216	259,888	242,763	233,155	229,667
収益合計	619,294	816,809	875,071	872,492	862,081	892,710	908,130	932,036	935,212	946,033	917,408	949,631	1,022,331
うち一般会計 繰入	239,569	374,984	275,136	270,161	279,704	282,623	287,856	270,118	239,464	260,166	311,918	342,434	383,288
2. 医業費用	624,932	858,067	963,860	963,147	975,676	941,367	939,561	959,755	951,743	954,501	958,835	1,009,906	1,047,403
1) 給与費	364,596	482,752	497,289	483,479	475,576	486,397	518,893	538,528	569,978	577,141	567,598	613,019	656,541
2) 材料費	73,901	101,559	102,813	96,613	97,787	74,392	72,297	72,668	74,566	86,115	73,463	70,943	69,716
費用合計	634,235	881,610	983,759	982,407	995,459	943,192	941,277	966,110	953,370	978,557	982,750	1,033,376	1,071,814
事業損益	-14,941	-64,801	-108,688	-109,915	-133,378	-50,482	-33,147	-34,074	-18,158	-32,524	-65,342	-83,745	-49,483

解説；令和7年度の入院収益は患者増加に伴い若干増加したが、給与費を中心に医業費用が増加し、収支は悪化している。昨年度に引き続き入院患者増加が最大の課題である。

10) ケアマネージャーとの連携

連携シートの発行状況（表11）

ケアマネから病院 へ	平成 27 年度	平成 28 年度	平成 29 年度	平成 30 年度	令和 元 年度	令和 2 年度	令和 3 年度	令和 4 年度	令和 5 年度	令和 6 年度	令和 7 年度
発行数	39	43	44	65	80	71	86	101	105	128	107
対象者	229	207	189	246	245	255	267	277	240	274	260
発行率	17%	21%	23%	26%	33%	28%	32%	36%	44%	47%	41%

病院からケアマネ へ	平成 27 年度	平成 28 年度	平成 29 年度	平成 30 年度	令和 元 年度	令和 2 年度	令和 3 年度	令和 4 年度	令和 5 年度	令和 6 年度	令和 7 年度
発行数	108	113	85	142	121	113	115	119	128	117	124
対象者	208	199	155	218	224	248	231	227	262	255	255
発行率	52%	57%	55%	65%	54%	46%	50%	52%	49%	46%	49%

サマリーを含めた情報連携状況（表 12）

ケアマネから病院へ	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度
発行数	147	143	160	166	145	176	174
対象者	245	255	267	274	240	274	260
発行率	60%	56%	60%	61%	60%	64%	67%

病院からケアマネへ	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度
発行数	190	189	204	210	254	246	242
対象者	224	248	231	227	262	255	255
発行率	85%	76%	88%	93%	97%	96%	95%

解説：ケアマネージャーと病院間の連携シートによる情報提供は例年通りで、ケアマネージャーから4割、病院から5割ほどの発行であった。病院からケアマネージャーへの情報発信はサマリーを代用することで、十分になされている。ケアマネージャーから病院への情報発信の増加を期待している。

11) 転院患者入院時カンファランス（表 13）

	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度
転院患者総数	41	61	50	51	55	55	57	64	56	54	40	53
カンファランス施行数	38	51	41	35	45	39	39	45	33	37	28	50
施行率	93%	84%	82%	69%	82%	71%	68%	70%	59%	69%	70%	94%

参加職種	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度
医師	-	54	46	54	59	46	43	51	39	50	37	54
看護師	-	95	109	68	72	50	43	53	40	41	33	66
MSW	-	49	41	35	45	39	39	45	30	36	28	50
リハビリ技士	-	46	40	32	52	40	38	46	33	37	27	48
管理栄養士	-	37	32	23	32	28	4	4	4	1	1	2

参加者	平成 26 年度	平成 27 年度	平成 28 年度	平成 29 年度	平成 30 年度	令和 元 年度	令和 2 年度	令和 3 年度	令和 4 年度	令和 5 年度	令和 6 年度	令和 7 年度
患者本人	-	10	9	3	6	20	14	16	9	14	13	21
家族	-	89	75	56	80	64	57	61	60	64	38	75
ケアマネ	-	22	23	18	20	18	19	23	14	17	9	28
包括支援セン ター・町職員	-	18	3	3	8	15	13	13	1	4	11	7

解説：転院患者の入院時カンファランスは、平成26年4月から開始した。急性期病院である前医での説明とその内容の患者家族の受け止め方や患者家族の思いなどを確認し、当院での治療の目標を共有する重要な場となっている。中間期目標の設定や、時間管理を行うことも多く、退院支援、退院調整を進めるうえで、欠くことができない機会になっている。令和7年度のカンファランス実施率は94%で過去最高であった。カンファを設定し司会する高橋豊宏社会福祉士（MSW）に感謝する。参加職種のコアメンバーは、医師、看護師、MSW、リハビリ技士である。患者側は、家族とケアマネージャーが中心で、介護保険未申請の場合などは包括支援センターや町の職員が参加している。本人の参加が増えることを期待している。

12) 病院救急車（表14）

		平成28 年度	平成29 年度	平成30 年度	令和元 年度	令和2 年度	令和3 年度	令和4 年度	令和5 年度	令和6 年度	令和7 年度
総数		4	12	8	7	5	22	10	11	4	0
内訳	転院	0	11	7	6	1	8	8	6	4	0
	通院	2	0	0	0	0	9	0	3	0	0
	一時帰宅	1	1	1	0	0	4	0	2	0	0
	自宅退院	1	0	0	1	4	1	2	0	0	0

解説：独居や高齢者同士の世帯が多い高齢の町では、転院や自宅への退院、緩和医療を受けている方の外出の際の交通手段の確保は大きい課題であり、病院救急車の運用は重要である。令和7年度はなかったが、引き続き移動のニーズに対応していきたい。

13) 未収金（表15）

発生時期	～平成 10年度	平成11年 ～平成20 年度	平成21年 ～平成25 年度	平成26 年～平成 29年度	平成30 年度	令和元 年度	令和2 年度	令和3 年度	令和4 年度	令和5 年度	令和6 年度	令和7 年度
人数	1	8	2	1	0	0	0	0	0	0	0	0
未収金残額 (円)	32,310	306,610	175,448	17,490	0	0	0	0	0	0	0	0

解説：未収金を減らすことは、町立病院の重要なミッションである。平成30年度以降、未収金は適正である。

14) 訪問診療、訪問看護（表16）

		平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度
介護保険	訪問看護	590	137	218	191	179	127	60	105	135	168	158	108
	居宅療養管理指導	97	54	46	40	35	67	148	153	164	170	195	152
医療保険	訪問看護	3	12	6	31	2	0	4	17	22	25	52	51
	訪問診療	97	56	51	47	51	66	166	161	187	193	219	178

解説；平成26年度から、入院患者の増加を病院運営の柱とした。そのため、訪問診療、訪問看護の例数は大きく減少していた。令和2年度から包括ケア病床を導入し、その運用の条件として訪問診療が必要であり、件数はその後急増している。改めて振り返ると、高齢の町では訪問診療、訪問看護医療ニーズは大きく、今後も継続したい。令和7年度の訪問診療、訪問看護は介護保険の訪問看護が減少したが概ね前年度と同様であった。

15) 夜間診療、オンライン診療

夜間診療（表17）

平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度
35	36	42	29	22	20	16	20	15	17	16

オンライン診療（表18）

	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度
人数	3	3			6	0
延べ回数	9	7	227	41	6	0

解説；夜間診療は住民の要望を受けて、平成27年1月から開始した（月1回、第2火曜日）。症例数の増加は認められず、対策が必要である。オンライン診療は、新型コロナウイルス感染症の蔓延対策として導入し令和4年度は激増したが、新型コロナウイルス感染症の沈静化に伴い急激に減少した。高齢の町の診療ニーズの多様性に応えるために、今後取り組むべき領域である。

16) 死亡統計、施設、在宅看取り件数

死亡統計（表19）

	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度
診断書	40	47	41	44	45	48	50	43	45	56	54	73	65	56	51
検案書	10	3	6	8	7	0	4	4	7	5	3	2	2	3	4
計	50	50	47	52	52	48	54	47	52	61	57	75	67	59	55

施設、在宅看取り件数（表 20）

	令和 2 年度	令和 3 年度	令和 4 年度	令和 5 年度	令和 6 年度	令和 7 年度
ぶなの園	2	3	7	7	6	10
ゆいっこ	0	0	0	1	0	0
在宅	2	0	6	7	8	4

解説；死亡者数は、令和 4、5 年度はコロナ禍の影響があり急増した。令和 7 年度は例年に近い数字に戻っている。令和 4 年以降取り組んでいる、嘱託契約を行っている特養施設のぶなの園や在宅看取りは順調に症例数を重ねている。これらの取り組みには、令和 4 年 4 月に活動を開始した緩和ケアチーム（緩和ケア委員会）の関与が大きな力になっている。

17) エンドロールカンファ（表 21）

平成 30 年度	令和 元 年度	令和 2 年度	令和 3 年度	令和 4 年度	令和 5 年度	令和 6 年度	令和 7 年度
8 例	4 例	5 例	12 例	10 例	15 例	12 例	17 例

解説：エンドロールカンファと名称をつけたデスカンファは、終末期治療の充実を目的として平成 29 年から開催している。小原院長の専門的指導のもとでの終末期の個々のケアの振り返りとして重要な取り組みである。研修医教育の一環とも位置づけており、最低月 1 回の定期的な開催を継続している。令和 7 年度は 17 例と最も多く開催できており、振り返りの内容も充実してきている。令和 8 年 3 月には、全県対象の緩和ケアテレカンファの担当病院として見事に症例をプレゼンしてくれました。

18) 手術室対応手術数（表 22）

	平成 25 年度	平成 26 年度	平成 27 年度	平成 28 年度	平成 29 年度	平成 30 年度	令和元 年度	令和 2 年度	令和 3 年度	令和 4 年度	令和 5 年度	令和 6 年度	令和 7 年度
外来	9	3	5	7	4	11	5	5	9	5	12	3	5
病棟	1	2	10	21	25	19	14	9	5	10	3	4	1
合計	10	5	15	28	29	30	19	14	14	15	15	7	6
医師延人数	10	10	25	42	50	52	32	24	20	28	19	16	8
スタッフ延人数	24	24	42	95	73	58	44	32	32	30	30	18	13

解説；手術室施行の手術件数は、最近は 15 例前後で推移していた。令和 7 年度は 6 例と少なかった。当院は外科医が多く、今後とも積極的に小手術を行なっていきたい。

19) 内視鏡数 (表 23)

	平成 25 年度	平成 26 年度	平成 27 年度	平成 28 年度	平成 29 年度	平成 30 年度	令和元 年度	令和 2 年度	令和 3 年度	令和 4 年度	令和 5 年度	令和 6 年度	令和 7 年度
上部内視鏡	162	134	165	174	139	162	140	171	140	169	157	176	158
胃瘻	5	10	11	7	4	17	8	15	8	10	3	2	2
下部内視鏡	42	43	61	98	43	55	62	67	71	64	73	63	69
ポリープ切除	0	0	1	9	0	0	0	0	3	1	8	8	6

解説；山下医師と中野医師の応援診療により、内視鏡施行症例数は維持されている。胃瘻のニーズにも十分対応できているが、過去 2 年間は 2 例と少なかった。ACP の浸透が関与しているかもしれない。クリニカルパスを導入して実施している大腸ポリープ切除は、令和 7 年度は 6 例と例年通りであった。

20) 査定 (表 24)

		平成 27 年度	平成 28 年度	平成 29 年度	平成 30 年度	令和元 年度	令和 2 年度	令和 3 年度	令和 4 年度	令和 5 年度	令和 6 年度	令和 7 年 度 4-11 月
入院	請求 点数 数	19,360,036	21,218,793	20,201,042	22,144,304	22,046,984	28,955,226	29,601,829	28,113,154	24,716,592	27,165,355	17,816,270
	査定 点数 数	37,234	41,929	24,724	16,129	33,280	12,321	6,796	193,036	97,043	568	6,236
	査定 率	0.19%	0.20%	0.12%	0.07%	0.15%	0.04%	0.02%	0.69%	0.39%	0.002%	0.04%
外来	請求 点数 数	20,252, 317	21,549, 861	22,116, 095	20,267, 161	19,476, 612	19,258, 301	19,889, 366	20,046, 556	18,465, 636	17,509, 660	11,397, 134
	査定 点数 数	57,390	34,161	33,259	31,559	27,390	23,654	28,467	38,448	24,343	38,177	17,574
	査定 率	0.28%	0.16%	0.15%	0.16%	0.14%	0.12%	0.14%	0.19%	0.13%	0.22%	0.15%

合 計	請 求 点 数	39,612,353	42,768,654	42,311,082	424,114,654	41,523,596	48,213,527	49,491,195	48,159,710	43,182,228	44,675,015	29,213,404
	査 定 点 数	94,624	76,090	57,983	47,688	60,670	35,975	35,263	231,484	121,386	38,745	23,810
	査 定 点 数 率	0.24%	0.18%	0.14%	0.11%	0.15%	0.07%	0.07%	0.48%	0.28%	0.09%	0.08%

解説：病院を挙げて査定減に取り組んでおり、全体的には成果が上がりつつある。令和2年度と3年度は初めて0.1%以下に下がったが、令和4、5年度は、新型コロナウイルス感染症関連の査定が急増し入院、外来とも増加した。令和7年度は0.08%と前年度と同様で令和3年度の0.07%に近くまで減少している。包括ケア病床導入に伴い、査定のほとんどが外来であり、外来査定対策をさらに強化し、目標の0.05%未満を達成したい。

21) 減耗（円）（表 25）

	平成 25 年度	平成 26 年度	平成 27 年度	平成 28 年度	平成 29 年度	平成 30 年度	令和元 年度	令和 2 年度	令和 3 年度	令和 4 年度	令和 5 年度	令和 6 年度	令和 7 年度
内服	438,027	333,952	85,024	154,621	261,480	228,242	228,844	518,362	102,630	249,522	242,430	121,628	153,469
注射	17,243	27,851	105,364	161,826	625,138	236,101	107,805	80,855	141,688	75,753	211,946	145,636	148,950
材料	43,565	127,890	12,000	144	30,389	0	0	0	42,462	73,725	44,762	0	0
合計	498,835	489,693	202,388	316,591	917,007	464,343	336,649	599,217	286,780	399,000	499,138	267,264	302,419

解説；令和7年度の内服薬と注射薬の減耗は前年度と同等であった。材料費の減耗は昨年度に引き続き0であり、SPDの効果と思われる。

22) 光熱水費（表 26）

	平成 29 年度	平成 30 年度	令和元年度	令和 2 年度	令和 3 年度	令和 4 年度	令和 5 年度	令和 6 年度	令和 7 年度
燃料チップ	6,766,200	5,821,200	6,375,950	6,294,750	6,860,700	6,344,800	7,165,950	6,551,050	7,042,970
重油	1,209,600	640,440	829,800	809,490	1,664,300	1,098,900	820,600	770,000	873,400
電気	17,964,488	18,689,365	16,876,340	15,560,064	17,614,456	25,651,360	24,929,536	23,750,990	23,918,843
上水道	1,391,040	1,448,280	1,509,726	1,574,320	1,727,000	1,335,840	1,342,440	1,337,380	1,475,848

解説：物価高騰の中で令和7年度の光熱水費はここ数年と同等であり評価できる。引き続き、節電、節水など支出の削減に努力していきたい。

23) 退院時要約の2週間以内作成率（表27）

	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度
退院患者数	426	375	383	393	454
2週間以内作成件数	174	335	379	393	454
2週間以内作成率	40.8%	89.3%	99.0%	100.0%	100.0%

解説：退院時要約の2週間以内作成率は、令和3年度から集計を開始した。令和6年度は初めて100%となり令和7年度も継続している。退院時要約作成支援業務に携わる医療クラークに感謝する。

2. 救急

1) さわうち病院の救急車受け入れ患者の内訳、ウォークイン来院者の内訳、ヘリ搬入・搬送数
救急車受け入れ患者の内訳（表28）（表29）（表30）

	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度
他院搬送	3	15	7	15	16	18	6	17	22	10	12	9	17
入院	43	68	71	73	63	55	66	72	68	68	77	56	64
死亡	8	7	9	4	6	8	12	14	7	12	7	6	8
帰宅	16	23	36	62	53	30	43	18	47	55	58	40	29
合計	70	113	123	154	138	111	127	121	144	145	154	111	118

ウォークイン来院患者の内訳

	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度
他院搬送	26	14	10	13	26	18	26	17	22	18	22
入院	93	74	55	59	133	117	72	62	77	69	50
死亡	2	6	6	3	3	2	2	6	9	8	7
帰宅	571	514	508	467	535	333	437	596	466	494	371
合計	692	608	579	542	697	470	537	681	574	589	450

ヘリ搬送・搬入

	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度
ヘリ搬送	1	0	0	2	1	2	0	1	1	1
ヘリ搬入	3	0	0	0	0	0	0	0	1	0

解説：救急車受け入れ患者数は、令和3、4、5年度は新型コロナウイルス感染症の影響で多かったが、令和7年度の118名と前年度と同等に落ちついている。転帰では従来と同様に約半数が入院した。帰宅は25%であり、当地の救急車の安易な利用は少ない。ウォークイン来院患者は450例で集計を取り始めてから一番少なく、人口減少が関与していると思われた。転帰の内訳をみると、死亡、転院、入院を合わせると18%を占めており、トリアージの重要性が示されている。令和7年度はヘリ搬送が1例と少なかった。当院は基幹病院までの距離が長いことから、ヘリコプターの利用推進が必要と考えられる。

2) 西和賀消防の活動状況とさわうち病院の救急車受け入れ状況（表31）

	平成 25 年度	平成 26 年度	平成 27 年度	平成 28 年度	平成 29 年度	平成 30 年度	令和 元 年度	令和 2 年度	令和 3 年度	令和 4 年度	令和 5 年度	令和 6 年度	令和 7 年度
西和賀消防救急車出動件数 (a)	294	302	316	322	335	317	334	303	349	316	341	301	298
西和賀消防救急車搬送件数 (b)	269	280	289	297	304	295	316	278	322	299	309	266	277
西和賀消防救急車搬送人数 (c)	280	287	300	301	305	298	320	283	327	299	316	267	281
さわうち病院搬送件数 (d)	67	104	111	144	129	100	124	114	142	137	144	114	113
カバー率 (d/b)	24.9%	37.1%	38.4%	48.4%	42.4%	33.9%	39.2%	41.0%	44.1%	45.8%	46.6%	42.9%	40.8%
さわうち病院搬送人数 (e)	69	111	115	144	129	103	125	115	143	137	151	西 114 北上 大堤 3	115
カバー率 (e/c)	24.6%	38.7%	38.3%	47.8%	42.3%	34.6%	39.1%	40.6%	43.7%	45.8%	47.8%	43.8%	40.9%
不搬送件数 (f)	25	22	9	13	22	17	24	13	23	31	19	18	20
不搬送人数 (g)	25	23	11	13	22	17	24	13	23	31	19	18	21
救急車応需件数率 (d/(d+f))	72.8%	82.5%	92.5%	91.7%	85.4%	85.5%	83.8%	89.8%	86.1%	81.5%	88.3%	86.4%	85.0%
救急車応需人数率 (e/(e+g))	73.4%	82.8%	91.3%	91.7%	85.4%	85.8%	83.9%	89.8%	86.1%	81.5%	88.8%	86.7%	84.6%

参考；日本病院会（2024年度集計）

● 救急車応需率 78.7%

解説；令和7年度の西和賀消防の救急車搬送数は281名でほぼ例年並みであった。さわうち病院では西和賀消防の救急車113台、115名を受けており、比較的多かった。カバー率は41%であ

った。一方、救急車応需率は85%とおおむね従来通りであった。全国集計では転院事例は除外しており単純比較はできないが、全体として受け入れ要請があった場合には適切な対応を行っていると考えられる。

3) 令和7年度の西和賀消防管内の救急車搬送先と重症度（表32）

	死亡	重症	中等症	軽症	合計	カバー率
さわうち病院	8	18	56	35	117	41.2%
中部病院	0	17	39	15	71	25.0%
平鹿総合病院	2	7	17	16	42	14.8%
中央病院	0	1	8	1	10	3.5%
その他	0	7	24	13	44	15.5%
合計	10	50	144	80	284	
重症度の内訳	3.5%	17.6%	50.7%	28.2%		

解説；さわうち病院は、重症度に関係なく、万遍に救急車を受けている。また死亡例の多くを受け入れており、地域病院の責務を全うしている。西和賀消防管内の6割の救急車を受けている基幹病院に感謝している。西和賀町では他の地域と比べ軽症者28%と少なく救急車の使用は適正と思われる。

4) 令和7年度の当院に収容依頼後の不搬送事例の重症度と搬送先（表33）

	軽症	中等症	重症	死亡	総計
例数	13	5	2	1	21
割合	61.9%	23.8%	9.5%	4.8%	

	中部病院	平鹿総合病院	中央病院	その他	総計
例数	5	12	1	3	21
割合	23.8%	57.1%	4.8%	14.3%	

解説：令和7年度における、当院に収容依頼後の不搬送事例は21例であった。うち軽症例は6割を超えてあった。軽症例の不搬送を減らすことが町立病院の使命でありさらに努力したい。不搬送事例の多くを引受けてくれた平鹿総合病院、県立中部病院に感謝します。

5) 雪関連事故 (表 34)

	平成 26 年度	平成 27 年度	平成 28 年度	平成 29 年度	平成 30 年度	令和 元 年度	令和 2 年度	令和 3 年度	令和 4 年度	令和 5 年度	令和 6 年度	令和 7 年度
件数	29	18	25	30	17	13	32	21	13	13	15	52
重症度中等度以上	8	7	11	12	9	7	12	12	8	3	8	13
骨折 (再掲)	6	6	10	7	9	7	12	12	7	3	4	13
死亡 (再掲)	0	1	1	0	0	0	1	1	0	0	0	0

解説：令和7年度の雪関連事故は、スクールバスの事故があり多数の受傷者搬入があり52例と激増した。内訳では約4分の1が骨折などの重症例であった。幸い死亡例はなかった。雪の事故は時に重症化する。多くは回避可能であり、住民に呼びかけていきたい。

3. 各部門の活動

1) 薬剤部門 (表 35) (表 36)

処方箋の発行

	平成 25 年度	平成 26 年度	平成 27 年度	平成 28 年度	平成 29 年度	平成 30 年度	令和 元 年度	令和 2 年度	令和 3 年度	令和 4 年度	令和 5 年度	令和 6 年度	令和 7 年度
外来院内処方数	3,174	3,190	3,434	2,737	2,541	760	520	285	361	491	437	427	343
外来院外処方数	12,350	12,512	12,655	13,296	13,426	14,439	14,946	13,822	14,524	13,859	13,315	12,887	12,867
入院処方数	1,687	2,190	2,883	3,201	3,625	4,531	4,342	4,399	5,155	4,941	4,238	4,290	3,928

後発品の使用状況

	平成 28 年度	平成 29 年度	平成 30 年度	令和元 年度	令和 2 年度	令和 3 年度	令和 4 年度	令和 5 年度	令和 6 年度	令和 7 年度
後発品のある先発品+後発品規格単位	360,975	350,427	208,428	135,473	110,149	122,385	113,293	89,810	45,663	87,837
後発品の規格単位	157,354	185,522	135,617	110,265	97,814	106,229	103,248	82,388	40,337	83,280
後発品の使用割合	43.6%	52.9%	65.1%	81.4%	88.8%	86.8%	91.1%	91.7%	88.3%	94.8%

解説；平成30年度に小児、透析、注射の処方を原則院外とした。それに伴い外来の院内処方は大きく減少した。一方、令和3年度以降は新型コロナウイルス感染症の蔓延に伴う対応としてドライブスルー診察を継続したため外来の院内処方は増加したが、令和7年度は従来の数値に戻った。外来の院外処方数は患者数の減少の影響を受け減少傾向にある。令和7年度は前年度と同等であった。入院処方数は令和5年以降入院患者の減少に伴い減少している。

令和7年度の後発品の使用割合は95%と過去最高であった。松川薬剤師と医局の協力を感謝する。

2) 放射線部門検査数 (表 37)

	平成 25 年度	平成 26 年度	平成 27 年度	平成 28 年度	平成 29 年度	平成 30 年度	令和元 年度	令和 2 年度	令和 3 年度	令和 4 年度	令和 5 年度	令和 6 年度	令和 7 年度
CR	2,201	2,518	3,009	2,872	2,943	3,069	3,152	3,460	3,646	3,508	3,050	3,030	3,194
CT	372	464	834	828	875	1096	969	957	1,283	1,085	940	1,033	1,136
骨密度	691	667	738	667	825	905	986	975	1,053	1,101	1,049	1,032	1,056
歯科	368	414	487	418	410	417	453	321	286	520	472	275	415
透視	51	54	53	43	97	125	104	116	112	104	75	59	66
ポータブル	131	161	124	24	35	9	28	15	25	30	3	1	0
MRI				163	139	144	168	224	175	125	101	94	96
合計	3,814	4,278	5,245	5,015	5,324	5765	6,100	6,068	6,583	6,473	5,690	5,524	5,963

依頼検査数 (表 38)

	平成 26 年度	平成 27 年度	平成 28 年度	平成 29 年度	平成 30 年度	令和 元 年度	令和 2 年度	令和 3 年度	令和 4 年度	令和 5 年度	令和 6 年度	令和 7 年度
CT	39	50	44	32	58	77	37	33	6	7	4	3
MRI			2	2	1	0	1	0	0	0	0	0
合計	39	50	46	34	59	77	38	33	6	7	4	3

Ai 件数 (死亡例での CT 施行件数) (表 39)

	平成 26 年度	平成 27 年度	平成 28 年度	平成 29 年度	平成 30 年度	令和元 年度	令和 2 年度	令和 3 年度	令和 4 年度	令和 5 年度	令和 6 年度	令和 7 年度
Ai 件数	1	5	1	5	2	7	4	6	6	2	3	8

解説；令和 7 年度の放射線検査数はここ数年とほぼ同等であった。ポータブル撮影は適応を絞っており、令和 7 年度はなかった。MRI は減少傾向にある。適応に関し検討が必要かもしれない。依頼検査数は令和 4 年度以降大きく減少している。町内の医療機関から診断と治療を兼ねた紹介が増えている可能性があるが、町立病院の使命の一つであり推移を注目していきたい。令和 7 年度の Ai 件数は、8 例と一番多かった。夜間や休日に対応してくれた佐々木立子技師、孝信技師に感謝する。

3) 検査部門

検査数 (表 40)

	平成 25 年度	平成 26 年度	平成 27 年度	平成 28 年度	平成 29 年度	平成 30 年度	令和元 年度	令和 2 年度	令和 3 年度	令和 4 年度	令和 5 年度	令和 6 年度	令和 7 年度
検体数	7,470	9,666	10,946	10,415	8,219	12,684	11,509	11,691	13,545	11,737	10,913	11,261	11,472
肺機能	360	321	353	93	86	94	86	10	7	2	8	56	52
心電図	1,021	1,065	1,353	1,250	1,249	1,224	1,136	1,409	1,546	1,485	1,451	1,488	1,578
超音波	351	378	603	598	481	470	363	362	321	389	399	369	411

解説；令和 7 年度は前年度と同等の検体検査件数であった。令和 2 年以降、新型コロナウイルス感染症対策のため減少した肺機能検査は、感染が低率になったことと人間ドックでのエントリーが増えたため増加している。西田技士の頑張りで超音波検査数は順調に増加している。佐々木孝信放射線技師の就職で心エコーのタイムリーな実施が可能になり、今後の増加に期待している。

インフルエンザと新型コロナ検査件数と陽性率 (表 41)

インフルエ ンザ	平成 30 年度	令和元 年度	令和 2 年度	令和 3 年度	令和 4 年度	令和 5 年度	令和 6 年度	令和 7 年度
検査数	256	288	58	99	704	693	600	438
A 型	79	76	0	0	19	101	63	45
B 型	1	0	0	0	0	13	0	21
合計	80	76	0	0	19	114	63	66
陽性率	31%	26%	0%	0%	3%	17%	11%	15%

新型コロナ	平成 30 年度	令和元 年度	令和 2 年度	令和 3 年度	令和 4 年度	令和 5 年度	令和 6 年度	令和 7 年度
検査数	0	0	77	347	1,706	1,119	769	441
陽性数	0	0	0	18	440	184	171	52
陽性率			0%	5%	26%	16%	22%	12%

解説；インフルエンザ検査数は、令和 4 年以降増加し、陽性率は過去 3 年間 10% 台で推移している。新型コロナ検査数は蔓延した令和 4 年度をピークに減少している。陽性率も同じく令和 4 年度をピークに減少しているが、令和 7 年度は 12% でありインフルエンザと同等である。インフルエンザと新型コロナウイルス感染症に関しては、県内各地でクラスターの発生が報告されており、今後とも厳格な対応が必要である。

4) リハビリテーション部門

施行患者数 (表 42)

	平成 25 年度	平成 26 年度	平成 27 年度	平成 28 年度	平成 29 年度	平成 30 年度	令和元 年度	令和 2 年度	令和 3 年度	令和 4 年度	令和 5 年度	令和 6 年度	令和 7 年度
入院	1,144	1,368	2,409	2,905	2,968	4,005	3,852	3,783	4,542	4,530	3,666	3,662	3,781
外来	2,840	2,874	2,560	1,455	1,427	903	618	776	726	223	365	464	438
訪問	745	638	785	666	479	299	382	317	323	289	212	355	221
通所			858	1,000	831	978	933	928	891	740	854	908	925
合計	4,729	4,880	6,612	6,026	5,705	6,185	5,785	5,804	6,482	5,782	5,097	5,389	5,365

リハビリ介入率（表 43）

	令和 3 年度	令和 4 年度	令和 5 年度	令和 6 年度	令和 7 年度
入院患者総数	443	366	372	398	445
リハビリ介入数	331	269	278	279	309
介入率	75%	73%	75%	70%	69%

解説；平成 30 年度以降、入院患者中心の運営を行っている。令和 7 年度は、入院、外来、訪問、通所とも、過去 3 年間と同等の傾向を示した。全入院患者に対する POC を含めたりハ介入は 7 割を超えて推移しており、多くの入院患者への対応を継続している。

退院前リハビリ訪問指導（表 44）

	平成 26 年度	平成 27 年度	平成 28 年度	平成 29 年度	平成 30 年度	令和 元 年度	令和 2 年度	令和 3 年度	令和 4 年度	令和 5 年度	令和 6 年度	令和 7 年度
件数	8 件	15 件	18 件	9 件	27 件	16 件	18 件	21 件	12 件	15 件	10 件	13 件

解説；入院患者の在宅移行を安全で不安なく行なうためには、退院前リハビリ訪問指導は必須である。令和 7 年度は 13 例と例年並みであった。

5) 栄養管理部門

給食、特別加算食、透析外来食、ドック食の推移（表 45）

	平成 25 年度	平成 26 年度	平成 27 年度	平成 28 年度	平成 29 年度	平成 30 年度	令和 元 年度	令和 2 年度	令和 3 年度	令和 4 年度	令和 5 年度	令和 6 年度	令和 7 年度
入院給食延数	9,834	15,903	26,291	26,164	22,676	26,014	23,595	23,809	24,359	22,190	18,502	19,228	19,540
特別加算食	2,059	1,680	6,393	6,433	5,817	7,265	7,696	7,807	7,909	7,802	6,578	6,648	6,601
率 (%)	20.9%	10.6%	24.3%	24.6%	25.7%	28.4%	32.6%	32.8%	32.5%	32.5%	35.6%	34.6%	33.8%
透析外来食	1,432	1,612	1,898	2,031	2,166	2,046	1,313	312	263	0	0	0	0
ドック食数	338	310	331	290	325	264	254	211	227	219	201	195	255

解説；給食部門は、令和2年度は外部委託から院内組織に変更する大きな変化があった。入院患者の減少に伴い過去3年間の給食提供数は減少している。ここ数年の特別加算食率は30%を超えて推移している。人間ドック受診者の増加によりドック食は増加した。

栄養指導（表46）

	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度
外来・入院	84	51	53	79	45	80	15	37	57	27	43	57	38
ドック	338	310	326	300	325	260	254	211	227	219	201	195	255

解説；外来・入院の栄養指導件数は若干減少しており改善が期待される。人間ドック受診者の増加によりドックの栄養指導は増加した。

給食の栄養給与充足率（表47）

	基準	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度
エネルギー	100%	99%	100%	100%	100%	100%	101%	100%	99%	100%
たんぱく質	95-105%	93%	93%	96%	94%	94%	96%	95%	94%	94%
脂質	95-105%	98%	100%	98%	100%	100%	103%	122%	122%	121%
食塩	100%以下	99%	100%	100%	101%	99%	96%	97%	98%	95%
カルシウム	100%以上	93%	92%	92%	88%	100%	100%	91%	92%	92%
鉄	100%以上	113%	107%	135%	120%	123%	131%	123%	118%	111%
ビタミンA	100%以上	97%	101%	104%	90%	101%	103%	96%	100%	91%
ビタミンB1	100%以上	75%	75%	81%	85%	99%	102%	106%	116%	103%
ビタミンB2	100%以上	87%	85%	92%	88%	98%	98%	94%	96%	93%
ビタミンC	100%以上	106%	110%	124%	108%	107%	105%	91%	94%	92%
食物繊維	100%以上	68%	68%	78%	83%	101%	106%	110%	113%	111%

解説；給食の栄養給与充足率は、年度間で変動しており、令和7年度はたんぱく質、カルシウム、ビタミンA、B2、Cが95%未満であった。今後の推移を追いたい。

入院給食嗜好調査（表48）

総合満足度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度
満足	10	13	9	17	35	38	14	18	16

普通	7	11	14	8	12	11	8	12	12
不満	0	0	0	3	0	1	0	0	0
未回答	0	1	0	0	0	0	0	0	0
総計	17	25	23	28	47	50	22	30	28
満足の割合 (%)	58.8%	52.0%	39.1%	60.7%	74.5%	76.0%	63.6%	60.0%	57.0%

解説；令和7年度の入院給食嗜好調査の成績は、約6割が満足と回答し不満はなく、例年とほぼ同等であった。回答数の増加を期待したい。

摂食機能療法（表 49）

	平成 26 年度	平成 27 年度	平成 28 年度	平成 29 年度	平成 30 年度	令和元 年度	令和 2 年度	令和 3 年度	令和 4 年度	令和 5 年度	令和 6 年度	令和 7 年度
対象者	25	21	29	51	34	30	36	34	37	13	13	6
算定回数	494	362	611	784	408	467	451	467	623	148	178	85
算定可能日数	501	377	616	788	419	467	451	467	625	148	178	85
実施率 (%)	98.6%	96.0%	99.2%	99.5%	97.4%	100.0%	100.0%	100.0%	99.7%	100.0%	100.0%	100.0%

解説；高齢者が多く摂食嚥下機能障害患者が多いため、NST活動の一環として、摂食機能療法には力を入れている。令和7年度は対象患者が少なかった。

6) 透析、人工呼吸器使用、CART療法（表 50）

透析関連事項、人工呼吸器施行数、CART療法施行数

	平成 25 年度	平成 26 年度	平成 27 年度	平成 28 年度	平成 29 年度	平成 30 年度	令和元 年度	令和 2 年度	令和 3 年度	令和 4 年度	令和 5 年度	令和 6 年度	令和 7 年度
延べ透析患者数	2,129	2,334	2,746	2,919	3,009	3,100	3,100	3,078	2,925	2,369	2,254	2,162	1,797
延べ水質管理数	2,129	2,334	2,746	2,919	3,009	3,100	3,212	3,078	2,925	2,369	2,254	2,162	1,797
患者数（延べ数）	15	19	20	21	20	21	22	22	21	19	20	17	14
患者数（年度末）			19	19	20	21	21	20	17	16	16	13	12
新規導入	1	5	3	1	1	1	1	1	1	2	4	0	2
離脱	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	1
死亡	1	1	0	2	0	0	0	1	3	3	3	1	0
転院	0	0	0	0	0	0	0	1	1	0	0	2	1
シャントPTA依頼件数			4	13	10	13	13	20	20	20	11	16	12
人工呼吸器患者	1	2	3	2	4	2	4	2	3	3	2	1	3
CART療法患者数							1		1	1	0	0	1

解説；当町は透析患者の割合が県の平均値より1.5倍高く、腎不全患者の透析導入回避は喫緊の課題である。令和7年度の透析患者数は、前年度に引き続き離脱や転院があり減少した。透

析新規導入患者 2 例であった。過去 4 年間では以前に比べ増加傾向あり、推移に注目したい。
人工呼吸患者は 3 例、CART は 1 例施行し、例年通りであった。

7) 歯科

歯科医の保健活動 (表 51)

	平成 25 年度	平成 26 年度	平成 27 年度	平成 28 年度	平成 29 年度	平成 30 年度	令和 元 年度	令和 2 年度	令和 3 年度	令和 4 年度	令和 5 年度	令和 6 年度	令和 7 年度
学校医・保育所医活動	14.5	13	15	15.8	11.8	13	17.3	10.3	14	10	17.5	23.5	20.5
幼児・就学時健診活動	10	11.5	11.5	9.8	7.6	7.3	8.3	4.6	6.7	5.5	5	6.5	3
人間ドック健診活動	37	34	37.5	34.2	38	42.2	31.5	28	30.7	28	18	16.3	20.3
歯科保健講話	1	4.5	3.5	4	0	1	0	0	0	0	1.5	1	1
学校保健会活動	12	14	15	13.3	12	15.3	12.5	9	6.5	11.5	8	5.5	7
障害者施設健診活動	0	0	4.5	0	2.3	0	3.5	2.5	2.7	2.7	2.5	2	1.5
計 (時間)	74.5	77	87	77.1	71.7	78.8	73.1	54.4	60.6	57.7	52.5	54.8	53.3

骨粗鬆症治療関連歯科診察 (顎骨壊死予防) (表 52)

	平成 30 年度	令和元 年度	令和 2 年度	令和 3 年度	令和 4 年度	令和 5 年度	令和 6 年度	令和 7 年度
人数	33	20	16	19	29	22	17	11

解説 ; 歯科医の保健、福祉活動は、多方面にわたり精力的に行なわれている。顎骨壊死予防のための骨粗鬆症治療前歯科診察は、医科歯科連携の大きなテーマである。最近紹介症例が減少しており、経口の BP 製剤使用者を含め確実な歯科紹介を実施したい。

歯科衛生士の保健活動 (表 53)

	平成 25 年度	平成 26 年度	平成 27 年度	平成 28 年度	平成 29 年度	平成 30 年度	令和元 年度	令和 2 年度	令和 3 年度	令和 4 年度	令和 5 年度	令和 6 年度	令和 7 年度
実施延人数	2,145	1,939	1,871	2,063	1,674	1,495	1,562	1,441	1,230	1,280	1,255	1,088	1,033
衛生士延人数	240	202	207	217	210	108	176	162	153	170	166	152	172
所要時間	156 時 間 10 分	148 時 間 10 分	146 時 間 40 分	145 時 間 25 分	143 時 間 35 分	136 時 間 35 分	122 時 間 30 分	90 時間 20 分	90 時間 20 分	86 時間	80 時間	74 時間 30 分	77 時間 10 分

解説 ; 歯科衛生士の保健活動は、令和 7 年度は前年度同様 1,000 名を超えて施行されている。

歯科技工士の活動 (表 54)

	平成 25 年度	平成 26 年度	平成 27 年度	平成 28 年度	平成 29 年度	平成 30 年度	令和元 年度	令和 2 年度	令和 3 年度	令和 4 年度	令和 5 年度	令和 6 年度	令和 7 年度
義歯 (新義歯作成、修理、リベース)	1337	1,286	1,374	1,240	1,285	1,716	1,351	1,025	1,060	1,604	1,320	1,238	1,145

インレー、クラウン、ブリッジ、硬質レジン前装冠	357	377	246	286	320	214	292	295	369	604	615	431	591
自費治療（矯正、金属床、ハイブリッドなど）	0	7	23	12	19	17	12	13	16	17	15	18	16
*歯科技工加算	342	329	335	289	302	326	304	271	306	283	206	269	246

解説；歯科技工士の活動は例年通りであった。NST活動の中で歯科業務に関してはターゲットの半数は義歯であり、今後歯科技工士のベツトサイドや院外の活動の展開を期待している。

4. 医療の質の検証

1) 褥瘡発生

院内発生、持込褥瘡（表 55）（表 56）

	平成 25 年度	平成 26 年度	平成 27 年度	平成 28 年度	平成 29 年度	平成 30 年度	令和元 年度	令和 2 年度	令和 3 年度	令和 4 年度	令和 5 年度	令和 6 年度	令和 7 年度
院内新規発生	9	4	5	8	6	6	6	5	3	10	12	4	5
持込み：自宅	12	14	9	13	6	13	17	17	6	15	20	10	9
持込み：施設	6	7	8	5	6	4	6	8	1	20	10	6	9
持込み：他院	3	3	1	3	5	6	7	2	2	2	3	0	5
合計（持込）	21	24	18	21	17	23	30	27	9	37	33	16	23

解説；令和 4、5 年度はコロナ禍の影響で院内新規発生、持ち込み（自宅、施設）共に急増した。令和 6 年度は改善し、令和 7 年度も院内新規発生、持ち込み褥瘡とも前年度並みであったが、令和 3 年度に比べ院内発生、持ち込みとも多い。引き続き院内発生 0 を目指すとともに、外来の栄養管理を強化して自宅の褥瘡発生を低下させ、病院と介護施設との連携を強化し持ち込み褥瘡を低下させたい。

	平成 26 年度	平成 27 年度	平成 28 年度	平成 29 年度	平成 30 年度	令和元 年度	令和 2 年度	令和 3 年度	令和 4 年度	令和 5 年度	令和 6 年度	令和 7 年度	合計
新規 d2 以降 発生 数	4	3	3	4	6	5	5	3	6	7	4	5	55
対象 者入 院延 数	5273	8674	8446	7867	8038	7335	7901	8728	6905	5974	6708	6838	88687
発生 率	0.076%	0.035%	0.036%	0.051%	0.075%	0.068%	0.063%	0.034%	0.087%	0.117%	0.060%	0.073%	0.062%

参考；日本病院会（2023 年度集計）

● 院内新規褥瘡（d2 以深）発生率 0.13%

解説；ベンチマーキングでは、入院延人数を分母にし（持込褥瘡例や検討期間以前に発症した新規褥瘡例は除外）、d2 以深の新規発生数を分子として算出しており、コロナ禍の時期を含め当院の新規褥瘡の発症率は日本病院会の全国集計の平均に比べ良好である。なお、本集計は非常に煩雑であり日本病院会としては令和 5 年度で集計を終了している。今後新しい指標が導入される予定である。

2) 転倒転落（表 57）

	平成 25 年度	平成 26 年度	平成 27 年度	平成 28 年度	平成 29 年度	平成 30 年度	令和元 年度	令和 2 年度	令和 3 年度	令和 4 年度	令和 5 年度	令和 6 年度	令和 7 年度	合計
入院延患者数	4,784	6,432	9,957	9,913	9,570	10,169	9,509	9,386	9,491	8,666	7,286	7,717	7,730	110,610
転倒・転落数	9	12	20	19	15	28	13	24	27	12	31	20	22	252
率（‰）	1.88	1.87	2.1	1.92	1.57	2.75	1.37	2.56	2.84	1.38	4.25	2.59	2.84	2.28
損傷発生数	3	6	8	6	2	6	4	8	5	5	6	2	6	67
率（‰）	0.63	0.93	0.80	0.61	0.21	0.59	0.42	0.85	0.53	0.58	0.82	0.26	0.77	0.61
重度損傷発生数	0	0	2	0	0	2	0	1	3	4	0	0	0	12
率（‰）	0	0	0.2	0	0	0.2	0	0.11	0.32	0.46	0	0	0	0.11

参考；日本病院会（2024 年度集計）

- 転倒転落発生率の平均 2.93‰、レベル 2（あざ、すり傷）の障害発生率の平均 0.85‰、レベル 4（骨折など）の障害発生率の平均 0.06‰

解説；転倒転落の発生率は、コロナ禍の令和 3～5 年度を除くと、日本病院会の全国集計平均値より低い傾向を示してきた。一方、重度損傷発生率は全国集計より高く、高齢者が多い当院の課題であった。令和 7 年度は、発生数、発生率ともほぼ例年並みであった。後に述べる身体拘束最小化プロジェクトと転倒転落発生率は関係する可能性があり、今後注意深く発生率の推移に注目していきたい。また、上述した通り従来から骨折などの重度障害発生率を下げることを課題としてきたが、ここ 3 年間は骨折などの重症障害が無く好ましい傾向である。

3) MRSA（メチシリン耐性黄色ブドウ球菌）の検出状況（表 58）

	平成 24 年度	平成 25 年度	平成 26 年度	平成 27 年度	平成 28 年度	平成 29 年度	平成 30 年度	令和元 年度	令和 2 年度	令和 3 年度	令和 4 年度	令和 5 年度	令和 6 年度	令和 7 年度
新規院内発生	1	2	2	5	2	4	5	4	4	2	0	1	2	0
持込み	1	4	1	3	3	1	6	6	10	3	4	8	4	3
継続	2	7	6	5	6	1	12	5	1	1	0	0	0	0
外来	1	0	0	1	0	1	1	0	0	0	0	1	0	0
MRSA 統計	5	13	9	14	11	7	24	15	15	6	4	10	6	3
MSSA*				37	20	36	24	23	22	21	21	36	17	18
MRSA 比				27.5%	35.5%	16.3%	50.0%	39.5%	40.5%	22.2%	16.0%	21.7%	26.1%	14.3%

解説；令和7年度のMRSAの院内新規検出は令和4年度に引き続きなかった。嬉しい限りである。黄色ブドウ球菌検出例の中で耐性菌の占める割合は、14.3%で20%以下となっており適切である。

4) 培養件数 (表 59)

	平成 26年 度	平成 27年 度	平成 28 年度	平成 29 年度	平成 30 年度	令和 元 年度	令和 2 年度	令和 3 年度	令和 4 年度	令和 5 年度	令和 6 年度	令和 7 年度
血液培養 (総セット数)	122	119	124	251	181	106	96	140	73	179	124	110
その他の培養	188	240	236	236	206	196	193	200	152	187	146	121
総培養件数	310	359	360	487	387	302	289	340	225	366	270	231
2セット血液検体採取	112	118	124	250	180	106	96	140	70	178	124	110
2セット血液検体採取率	91.8%	99.2%	100.0%	99.6%	99.4%	100.0%	100.0%	100.0%	95.9%	99.4%	100.0%	100.0%
入院述べ患者数	6,432	9,957	9,913	9,570	10,169	9,509	9,386	9,491	8,666	7,286	7,717	7,730
血液培養施行率/1000 患者	19.0	12.0	12.5	26.2	17.8	11.1	10.2	14.8	8.4	24.6	16.1	14.2
陽性例	17	20	25	45	33	15	15	19	11	41	21	22
陽性率	13.9%	16.8%	20.2%	17.9%	18.2%	14.2%	16.7%	13.6%	15.1%	22.9%	16.9%	20.0%
汚染件数	0	0	0	1	0	0	0	0	1	0	1	1
汚染率	0.0%	0.0%	0.0%	0.4%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	2.9%	0.0%	1.6%	1.8%

参考; 日本病院会 (2024 年度集計)

● 血液培養の2セット採取 94.8%

解説：令和7年度の血液培養や全培養数は前年度に比べ減少。血液培養の2セット採取は定着している。1000 延べ入院患者あたりの血液培養施行に関しては、回復期 (亜急性病院) として目標値の設定を検討中である。血液培養陽性率 (目標値 5~15%) はほぼ適切と思われる。汚染率 (目標値 2-3%) は低く抑えられている。

5) 待時間調査 (表 60)

	平成 26 年度	平成 27 年度	平成 28 年度	平成 29 年度	平成 30年 度1 回目	平成 30年 度2 回目	令和 元 年度	令和 2 年度	令和 3 年度	令和 4 年度	令和 5 年度	令和 6 年度	令和 7 年度
調査人数	263 人	288 人	465 人	611 人	578 人	567 人	574 人	591 人	524 人	510 人	474 人	528 人	417 人
平均 待時 間	来院~呼 ばれた時 間 104 分	69.3 分	70.6 分	60.9 分	74.3 分	78.3 分	60.3 分	46.0 分	54.8 分	62.6 分	47.9 分	45.5 分	61.3 分
		33.6 分	23.4 分	26.8 分	36.9 分	35.4 分	32.5 分	13.5 分	22.3 分	22分	22.2 分	17.5 分	30.8 分

予約患者対象	予約時間枠内の比率	47.3%	50.8%	65.7%	59.1%	43.3%	43.0%	47.0%	52.1%	53.5%	49.0%	52.5%	55.3%	52.7%
	予約時間枠後30分以内の比率				82.7%	66.3%	64.5%	70.7%	77.8%	71.3%	72.7%	78.4%	77.8%	81.1%

解説；令和7年度は、予約時間～呼ばれた時間の平均は30.8分で前年度と比べ延長した。一方、53%が予約時間内に診察を受けており、予約時間+30分以内の比率は81%であり、待ち時間は比較的良好であった。予約時間枠の診察開始の増加に向けて引き続き努力したい。

6) 満足度調査 (表 61)

入院

	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度			
	満足の率 (%)	満足の率 (%)	満足の率 (%)	満足の率 (%)	満足の率 (%)	全回答	有効回答	満足の率 (%)	不満の率 (%)
	対有効回答	対有効回答	対有効回答	対有効回答	対有効回答			対有効回答	対有効回答
(1) 今後も当院を利用したいと思うか	95%	87%	72%	83%	85%	14	13	85%	0%
(2) 当院を紹介したいと思うか	91%	77%	47%	72%	69%	14	13	69%	0%
(3) 当院について総合的にどう思うか	91%	83%	83%	88%	93%	14	13	85%	0%

外来

	令和5年度				令和6年度				令和7年度			
	全回答	有効回答	満足の率 (%)	不満の率 (%)	全回答	有効回答	満足の率 (%)	不満の率 (%)	全回答	有効回答	満足の率 (%)	不満の率 (%)
			対有効回答	対有効回答			対有効回答	対有効回答			対有効回答	対有効回答
(1) 今後も当院を利用したいと思うか	123	118	74.6%	1.7%	150	142	81.6%	0.0%	219	200	73.5%	0.0%
(2) 当院を紹介したいと思うか	124	114	57.0%	2.6%	150	142	59.1%	4.2%	219	192	64.1%	0.5%
(3) 当院について総合的にどう思うか	122	117	65.0%	4.3%	150	141	65.0%	1.4%	219	192	66.1%	2.1%

参考；日本病院会（2024年度集計）

- 外来；全般的評価として満足・やや満足の割合の平均 82.5%
- 入院；全般的評価として満足・やや満足の割合の平均 89.8%

解説；入院に関する満足度調査は、全国集計と変わらずに優れている。外来に関しては、設備医療機械の制限や診療科の制限があり苦戦している。ソフトの面で努力したい。

7) 職員数、医師数（表 62）（表 63）

職員数	平成 26 年度	平成 27 年度	平成 28 年度	平成 29 年度	平成 30 年度	令和 元 年度	令和 2 年度	令和 3 年度	令和 4 年度	令和 5 年度	令和 6 年度	令和 7 年度	令和 8 年度
常勤	46	49	50	46	46	46	55	54	52	54	56	52	55
臨時	14	19	24	24	30	30	23	23	26	25	27	32	30
小計 1	60	68	74	70	76	76	78	77	78	79	83	84	85
包括・健 福	3	4	2	3	1	2	2	2	常 2、臨 1	常 2、臨 1	常 3、臨 1	常 3、臨 1	常 3、臨 1
小計 2	63	72	76	73	77	78	80	79	81	82	87	88	89
委託	11	15	15	15	15	15	14	13	14	14	14	13	15
総計	74	87	91	88	92	93	94	92	95	96	101	101	104

医師数	平成 25 年度	平成 26 年度	平成 27 年度	平成 28 年度	平成 29 年度	平成 30 年度	令和元 年度	令和 2 年度	令和 3 年度	令和 4 年度	令和 5 年度	令和 6 年度	令和 7 年度	令和 8 年度
常勤	2→1	3	3→2	2	3	3	3	3→4	3→2	2→3	3	3	3	3
非常勤	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	1	2→3	2	2

解説；病院の運営のためには適正なスタッフ維持が必須であり、町の協力で確保に力を入れている。令和 2 年度には給食業務が委託から臨時へと変わった。令和 6 年度以降は全職員数が 100 名を超える恵まれたスタッフ数で業務を行なっている。常勤医師数は、ここ 2 年は 5 名を超えており充実している。スタッフ数増加に見合ったパフォーマンスの向上が必要である。

8) 職員健診結果（表 64）

	令和元年	令和 2 年	令和 3 年	令和 4 年	令和 5 年	令和 5 年	令和 6 年	令和 7 年
受診者	68	68	66	70	69	69	73	78
c 項目を有する者 (*: C 評価)	34	31*	31	39	39	39	39	42
率	50.0%	45.6%	47.0%	55.7%	56.5%	56.5%	53.4%	53.8%
フォローの必要者			18	21	24	24	16	22
率			27.3%	30.0%	34.8%	34.8%	21.9%	28.2%

c 項目延べ数		47	45	41	51	55	55	53	63
c 項目の内訳	高血圧	8	11	12	18	15	15	11	21
	脂質異常	13	13	9	10	12	12	13	11
	貧血	5	4	5	4	6	6	5	3
	肝機能障害	9	7	5	5	5	5	6	5
	糖代謝異常	1	2	1	3	4	4	1	2
	尿所見異常	2	0	2	1	3	3	4	3
	眼底所見異常	3	2	1	1	2	2	1	2
	便潜血	2	1	2	1	3	3	1	4
	甲状腺異常	0	2	0	1	2	2	3	2
	胸部 XP 異常	0	0	0	2	1	1	1	0
	聴覚異常	0	0	0	0	1	1	2	2
	尿酸異常	2	2	2	2	0	0	3	3
	白血球数異常	0	0	0	1	0	0	0	0
	多血症	0	1	0	1	1	1	1	1
	心電図異常	2	0	1	0	0	0	1	1
胃透視異常	0	0	1	1	0	0	0	0	

令和7年度の職員健診で受診が勧められるc項目を有する職員は過半数おり、ここ数年と同様の傾向を示した。異常の具体的内容は、高血圧と脂質異常が多かった。受診勧奨を受けた職員へのフォローを北村顧問が担当し継続している。

5. 委員会活動

1) NST（栄養サポートチーム）活動

(1) 入院時スクリーニング（表 65）

	平成 27 年度	平成 28 年度	平成 29 年度	平成 30 年度	令和元 年度	令和 2 年度	令和 3 年度	令和 4 年度	令和 5 年度	令和 6 年度	令和 7 年度
新規入院患者数（人）（a）	425	418	380	419	414	423	443	366	372	398	445
除外患者（大腸、睡眠時無呼吸検査入院）											39
対象入院患者数（A）											406
スクリーニング実施数（人）（b）	375	371	344	388	391	413	438	359	352	378	393
スクリーニング実施率（%）	88.2%	88.8%	90.5%	92.6%	94.4%	97.6%	98.9%	98.1%	94.6%	95.0%	96.8%

(b/a)											
R7～(b/A)											
NST 対象一次リストアップ 数 (人) (c)	194	175	188	238	245	262	270	252	253	246	242
NST 対象一次リストアップ 率 (%) (c/b)	51.7%	47.2%	54.7%	61.3%	62.7%	63.4%	61.6%	70.2%	71.9%	65.1%	61.6%
NST 対象最終リストアップ 数 (人) (d)	100	57	51	99	66	53	35	17	38	49	57
NST 対象最終リストアップ 率 (%) (d/b)	26.7%	15.4%	14.8%	25.5%	16.9%	12.8%	8.0%	6.6%	10.8%	13.0%	14.5%
入院後 2 週間以内のカンフ ァ実施数 (人) (e)	34	34	46	91	54	49	32	16	31	45	50
入院後 2 週間以内のカンフ ァ実施率 (%) (e/d)	34.0%	60.7%	90.2%	91.9%	81.8%	92.5%	91.4%	94.1%	81.6%	91.8%	87.7%

解説；NST の入院時スクリーニングは定着している。最近では約 6 割が低栄養として拾い上げた。令和 4、5 年度では、7 割台に増加しており、入院患者の高齢化に加え、コロナ禍の影響が窺われた。低栄養患者へはタイムリーな NST 介入が必要であり、過去 2 年間は最終 NST リストアップ率が上昇しており良い傾向である。スクリーニングでリストアップされた症例に関する入院後 2 週間以内のカンファ実施率は、平成 29 年度以降は高率に維持されている。

(2) 病棟看護師と歯科衛生士の口腔内スクリーニング (表 66)

	平成 27 年度	平成 28 年度	平成 29 年度	平成 30 年度	令和 元 年度	令和 2 年度	令和 3 年度	令和 4 年度	令和 5 年度	令和 6 年度	令和 7 年度
実施回数 (回)	51	52	50	48	49	47	49	43	49	49	49
対象患者数 (人) (a)	258	223	175	309	414	286	327	286	281	282	317
口腔回診実施患者数 (人) (b)	237	211	169	289	302	285	327	286	281	282	296
対象患者あたりの口腔回診実施率 (%) (b/a)	91.9%	94.6%	96.6%	93.5%	72.9%	99.7%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	93.4%
歯科医師診察必要数 (人) (c)	64	61	49	105	81	81	94	80	48	53	39
歯科医師診察実施数 (人) (d)	55	49	45	86	79	81	92	79	48	53	39
歯科医師診察実施率 (%) (d/c)	85.9%	80.3%	91.8%	81.9%	97.5%	100.0%	97.9%	98.8%	100.0%	100.0%	100.0%

口腔回診実施患者あたりの歯科医師診察必要率 (%) (c/b)	27.0%	28.9%	29.0%	36.3%	26.8%	28.4%	28.7%	28.0%	17.1%	18.8%	13.2%
---------------------------------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------

解説；病棟看護師と歯科医師、歯科衛生士が入院患者の口腔内スクリーニングすることで、早期に口腔内環境・機能に関してタイムリーに治療を開始することが可能となる。令和7年度は、対象患者あたりの口腔回診実施率と歯科医師診察実施率は高く維持されている。口腔回診実施患者あたりの歯科医師診察実施率は過去3年間は低く気になるところである。

(3) 病棟看護師と歯科衛生士のスクリーニング後の歯科医の介入内容 (表 67)

	平成 27 年度		平成 28 年度		平成 29 年度		平成 30 年度		令和元 年度		令和2年 度		令和3 年度		令和4 年度		令和5 年度		令和6 年度		令和7 年度	
義 歯 関 連	3	54.5%	3	63.3%	2	53.3%	4	50.0%	4	60.8%	5	65.4%	4	55.2%	5	65.8%	2	56.3%	2	53.0%	1	46.2%
	0	%	1	%	4	%	3	%	8	%	3	%	8	%	2	%	7	%	8	%	8	%
外 科 処 置	5	9.1%	3	6.1%	3	6.7%	2	23.3%	8	10.1%	2	2.5%	6	6.9%	8	10.1%	8	16.7%	7	13.2%	5	12.8%
							0	%		%						%		%		%		
歯 周 病 関 連	2	3.6%	1	2.0%	0	0.0%	2	2.3%	3	3.8%	5	6.2%	2	2.3%	1	12.7%	4	8.3%	5	9.4%	8	20.5%
													0	%								
そ の 他	6	10.9%	4	8.2%	7	15.6%	4	4.7%	3	3.8%	5	6.2%	5	5.7%	5	6.3%	6	12.5%	9	16.9%	6	15.4%
診 査 の み	1	21.8%	1	20.4%	1	24.4%	1	19.8%	1	21.5%	1	19.8%	2	29.9%	4	5.1%	3	6.2%	4	7.5%	2	5.1%
	2	%	0	%	1	%	7	%	7	%	6	%	6	%								

解説；口腔内環境・機能に関するスクリーニング後の歯科医の介入の内訳では義歯関連が圧倒的に多い。令和7年度は歯周病関連が20%を超えて多く、推移を注目したい。令和4年度以降は口腔内スクリーニングに原則歯科医が同行しており、診察のみの件数が減っている。

(4) 入院時のアルブミン値 (表 68)

	平成 26 年度	平成 27 年度	平成 28 年度	平成 29 年度	平成 30 年度	令和元 年度	令和 2 年度	令和 3 年度	令和 4 年度	令和 5 年度	令和 6 年度	令和 7 年度
測定数	127	258	251	189	255	252	248	282	245	233	267	268
3.5g/dL 以下	76	164	157	100	148	169	161	156	151	161	154	139
	59.8%	63.6%	62.5%	52.9%	58.0%	67.1%	64.9%	55.3%	61.6%	69.1%	57.7%	51.9%
3.0g/dL 以下	44	100	88	53	76	91	23	88	83	83	87	58
	34.6%	38.8%	35.1%	28.0%	29.8%	36.1%	33.5%	31.2%	33.9%	35.6%	32.6%	21.6%

解説；血清アルブミン値の評価は栄養のみならず炎症が関与するとする考えが導入されつつある。古典的な意味での入院患者のアルブミン値の評価では、令和 7 年度は約 5 割が低栄養、約 2 割が中等後以上の低栄養であり、低栄養の率が減少しており、推移を注目したい。

(5) 血清プレアルブミン値と血清亜鉛と血清鉄の測定件数（表 69）

	平成 27 年度	平成 28 年度	平成 29 年度	平成 30 年度	令和元 年度	令和 2 年度	令和 3 年度	令和 4 年度	令和 5 年度	令和 6 年度	令和 7 年度
プレアルブミン	304	190	156	47	4	0	0	0	0	0	0
亜鉛	324	201	190	201	192	171	222	258	247	202	217
鉄				582	557	465	517	458	379	320	328

解説；プレアルブミンは臨床的有意性が評価できずルチンの使用は中止した。亜鉛や鉄に関しては、NST カンファランスでの検査科の働きかけで、令和 7 年度はわずかであるが検査数が増加傾向にある。

(6) 院内栄養輸液剤、院内経腸栄養剤、院外門前薬局（すみれ薬局の経腸栄養剤）の使用状況
院内栄養輸液剤の使用数（本）（表 70）

	平成 27 年度	平成 28 年度	平成 29 年度	平成 30 年度	令和元 年度	令和 2 年度	令和 3 年度	令和 4 年度	令和 5 年度	令和 6 年度	令和 7 年度
イントラリボス	100	270	410	386	100	83	88	12	15	0	0
ビーフリード	960	980	960	871	454	380	155	297	134	176	111
エルネオバ	100	99	510	328	158	23	54	8	0	73	10
エネフリード								195	233	164	105

院内経腸栄養剤の使用数（本）（表 71）

	平成 27 年度	平成 28 年度	平成 29 年度	平成 30 年度	令和元 年度	令和 2 年度	令和 3 年度	令和 4 年度	令和 5 年度	令和 6 年度	令和 7 年度
ラコール総数	264	168	604	506	728	675	681	1,026 (200) 132 (400)	465 (200) 44 (400)	71 (200) 84 (400)	102

エンシュア総数	2304	1632	408	0	0	0	165	48	リキッド4、 H 38	0	0
ラコール半固形									54 (300)	77 (300)	18
イノソリッド半固形											99
イノラス(125)									23	88	7

院外門前薬局：すみれ薬局の経腸栄養剤の処方 (mL・g) (表 72)

	平成 27 年度	平成 28 年度	平成 29 年度	平成 30 年度	令和元 年度	令和 2 年度	令和 3 年度	令和 4 年度	令和 5 年度	令和 6 年度	令和 7 年度
エンシュア	387,000	728,500	864,750	921,500	1,084,750	881,000	730,750	495,750	34,250	1,250	0
エンシュア H	0	0	35,500	347,250	298,000	324,000	204,750	91,000	114,500	17,250	109,250
ラコール	332,600	638,800	656,000	1,030,600	1,515,000	1,712,400	1,512,600	1,296,600	1,739,800	1,297,000	1,171,200
ラコール半固形	0	6,000	0	34,200	0	0	0	39,600	0	0	4,800
イノソリッド半固形											16,800
イノラス									21,375	60,250	29,500
総量 (mL・g)	719,600	1,373,300	1,556,250	2,333,550	2,897,750	2,917,400	2,448,100	1,922,950	1,909,925	1,375,750	1,331,550

解説：積極的な栄養管理は健康・疾患管理の基本である。院内薬局、院外門前薬局のオーダーの検証は栄養管理を反映するものであり重要である。令和 5 年度以降は院内外の栄養剤の使用が減少傾向にあり、その推移を注意深くみていきたい。

2) 安全管理：インシデント・アクシデント報告

インシデント・アクシデント報告の内容 (表 73)

	平成 25 年度	平成 26 年度	平成 27 年度	平成 28 年度	平成 29 年度	平成 30 年度	令和元 年度	令和 2 年度	令和 3 年度	令和 4 年度	令和 5 年度	令和 6 年度	令和 7 年度
転倒・転落	12	14	24	21	21	32	14	25	35	18	35	22	22
薬剤	9	24	17	15	18	8	18	17	36	23	30	45	39
カテーテ ル・チュー ブ管理	8	11	8	6	14	21	6	7	10	6	4	7	1
注射・点滴	11	11	9	6	13	16	10	16	27	12	11	13	9
指示出し	0	0	0	1	0								
指示受け	4	5	4	3	0								
検査	18	22	73	26	16	17	28	25	38	25	34	31	44
患者誤認	4	8	8	5	1	5	2	10	11	5	3*	9*	7*
食事・栄養	12	12	16	23	7	8	7	9	8	9	10	19	10

ケア・処置	14	11	4	4	2	4	3	3	12	8	4	6	9
機械・機器	1	0	3	2	5	1	5	3	0	1	1	4	2
針刺し	0	0	0	1	3	0	2	1	0	4	1	0	1
以外	26	15	18	8	19	14	10	7	19	20	16	19	17
計	119	133	184	121	119	126	105	123	196	131	146	166	154

*:再掲

インシデント・アクシデント報告の障害の程度 (表 74)

障害のレベル	平成 27 年度	平成 28 年度	平成 29 年度	平成 30 年度	令和元 年度	令和 2 年度	令和 3 年度	令和 4 年度	令和 5 年度	令和 6 年度	令和 7 年度
0	27	10	7	13	16	22	35	21	24	46	30
1	57	48	50	49	31	58	71	51	70	60	58
2	40	21	17	21	16	13	38	18	20	17	23
3a	11	9	13	24	15	8	16	9	7	6	7
3b	2	0	1	2	0	1	5	4	1	1	0
4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
5	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
その他	47	33	31	17	27	21	31	28	24	36	36
合計	184	121	119	126	105	123	196	131	146	166	154

インシデント・アクシデント報告の部局 (表 75)

報告部局	平成 25 年度	平成 26 年度	平成 27 年度	平成 28 年度	平成 29 年度	平成 30 年度	令和元 年度	令和 2 年度	令和 3 年度	令和 4 年度	令和 5 年度	令和 6 年度	令和 7 年度
病棟	60	70	78	52	61	72	37	53	94	43	64	58	66
外来	30	25	37	22	25	23	29	26	29	33	21	29	23
訪問	1	1	1	0	0	0	0	0	2	2	1	3	1
透析	5	2	4	6	3	5	3	5	8	8	6	12	7
サプライ	0	0	1	1	1	0	1	0	1	0	0	0	0
薬局	5	9	10	3	5	4	4	8	11	3	9	11	7
検査・放射 線	1	6	38	6	5	1	12	12	24	16	16	18	26
リハビリ	3	5	3	2	6	6	3	5	3	1	4	2	1
歯科	6	7	1	5	2	3	4	0	2	3	3	0	6

栄養科	8	6	10	21	5	6	5	6	6	9	4	17	5
受付	0	1	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1
事務	0	1	0	0	1	1	0	0	2	0	2	0	0
医局	0	0	0	2	5	5	7	8	14	12	16	16	11
医局の割合	0%	0%	0%	2%	4%	4%	7%	7%	7%	9%	11%	10%	7%
合計	119	133	184	121	119	126	105	123	196	130*	146	166	154

*令和4年度；1枚の報告書に2件の内容がある為、報告数と違っている。

参考；日本病院会（2024年度集計）

- インシデント・アクシデント報告数：月当たり100床当たり46.0件であり、40床あたり年間では221件
- 医師のインシデント・アクシデント報告数の割合：4.7%

解説；令和7年度のインシデント・アクシデント報告数は全国病院会の平均よりは若干少ない。今後0レベルの報告の増加を期待したい。部局では業務の量と質の関係で病棟が例年通り多い。また検査・放射線科が増加しており、今後の改善に期待したい。医局は全報告の7%と前年度に比べ減少しており、0レベル報告の増加など今後の推移に注目したい。報告内容の内訳では、薬剤が最も多く、点滴と合わせてリスクの多い業務である。検査、転倒・転落が続いており、関係部局での改善活動の継続をお願いしたい。残念ながら患者誤認が7例あった。患者自身に名乗ってもらうことなどルール遵守、ダブルチェック形骸化防止、指差し呼称確認、業務中断回避など再度基本に戻って業務の質管理を徹底してほしい、障害の程度に関しては、前年度多かったレベル0が減少している。安全管理委員会での取組強化を期待したい。最大の懸案であるレベル3bの事例は、令和7年度はなかった。引き続き、レベル3b以上の事例の0を目指したい。

6. 教育、研修関係

1) 研修、実習受け入れ

(1) 医科、歯科、リハビリテーション部門（表76）

内容	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度
	研修医；地域医療	5	5	6	7	6	6	5	4	7	7	7
1年次学生；医療体験実習	4	4	4	4	4	4	0	4	0	4	4	4
3年次学生；地域医療	2	2	2	2		2	0	1	0	1	2	4

	5年次学生；地域医療				1	1	8	0	0	0	8	8	6
	6年次学生；地域医療										1	1	2
歯科	研修医；地域医療	4	7	4	5	8	11	0	4	5	6	5	4
	5年次学生；地域医療	4	4	4	4	4	4	2	4	6	4	6	6
	歯科衛生士										1	1	2
リハビリ部門	病院実習	2	3	3	5	6	5	14	8	12	17	14	8

解説；令和7年度の医科、歯科、リハビリ部門の実習生、研修医の受入れは、ほぼ例年通り活発に行われている。

(2) 看護科 (表 77)

	平成 25 年度	平成 26 年度	平成 27 年度	平成 28 年度	平成 29 年度	平成 30 年度	令和元 年度	令和 2 年度	令和 3 年度	令和 4 年度	令和 5 年度	令和 6 年度	令和 7 年度
受入れ施設	8施設	9施設	9施設	10施設	6施設	8施設	4施設	4施設	4施設	2施設	4施設	5施設	5施設
延べ日数	9日間	26日間	28日間	26日間	35日間	38日間	32日間	33日間	33日間	4日間	14日間	18日間	13日間
受入れ人数	19名	60名	70名	57名	50名	48名	48名	48名	8名	4名	18名	21名	23名
延べ研修時間	115時 間	257.5 時間	429時 間	285時 間	371時 間	342時 間	384.5 時間	380.5 時間	80.75 時間	31.5時 間	135時 間	154時 間	87時間
担当スタッフ延べ数	42名	77名	84名	102名	65名	75名	69名	63名	53名	17名	35名	49名	41名

令和7年度の看護科の研修、実習受け入れは、ほぼ例年通り活発に行われている。

2) 研修会の参加状況

(1) 感染対策研修 (表 78)

		平成 27 年度	平成 28 年度	平成 29 年度	平成 30 年度	令和元 年度	令和 2 年度	令和 3 年度	令和 4 年度	令和 5 年度	令和 6 年度	令和 7 年度
1 回目	対象者*	86	86	82	84	81	88	87	91	88	92	96
	集合研修参加者	53	61	54	62	55	88	42	48	42	47	45
	参加率 (%)	62%	71%	66%	74%	68%	100%	47%	52%	48%	51%	46%
	全参加率**	86%	91%	84%	82%	88%	100%	99%	100%	99%	100%	100%
	備考	資料配 布	資料配 布 (アン	ビデオ 研修 (アン	ビデオ 研修 (アン	院内講 師	院内講 師	院内講 師	院内講 師	ビデオ 研修	吐物処 理の方 法	グルー プ学習

			ケート	ケート	ケート	ビデオ	タイペ	ビデオ	ビデオ	ビデオ	ビデオ	アンケ
			実施)	実施)	実施)	研修	ック着	補習、	補習、	補習、	補習、	
						(アン	脱(個	アンケ	アンケ	アンケ	アンケ	ート実
						ケート	別実	ート実	ート実	ート実	ート実	施
						実施)	習)	施	施	施	施	
2 回 目	対象者*	87	86	82	81	82	86	86	88	90	90	100
	集合研修参 加者	65	65	60	54	40	40	43	88	32	37	41
	参加率(%)	75%	76%	73%	67%	48%	48%	50%	100%	36%	41%	41
	全参加率**	93%	93%	88%	81%	86%	100%	100%	100%	100%	100%	100%
	備考	資料配 布 (アン ケート 実施)	ビデオ 研修と 手洗い 実習	PPE 着 脱実習 (アン ケート 実施)	e-ラー ニング	院外講 師 ビデオ 研修 (アン ケート 実施)	院外講 師 ビデオ 補習 (アン ケート 実施)	院内講 師 ビデオ 補習 (アン ケート 実施)	院内講 師 動画視 聴 (アン ケート なし)	院外講 師 ビデオ 補習 アンケート実 施	院内講 師 ビデオ 補習 アンケート実 施	院内講 師 ビデオ 補習 アンケート実 施

解説；感染対策の研修会は全員参加が原則で、年2回の開催が義務付けられている。補講を精力的に行い、最終的には100%の受講率となっている。

(2) 安全研修参加 (表 79)

		平成 26	平成 27	平成 28	平成 29	平成 30	令和元	令和 2	令和 3	令和 4	令和 5	令和 6	令和 7
		年度	年度	年度	年度	年度	年度	年度	年度	年度	年度	年度	年度
1 回 目	対象者*	73	88	86	82	82	82	78	78	80	78	83	96
	参加者	55	73	58	57	54	48	65	38	31	27	33	45
	参加率	75%	83%	67%	70%	66%	58%	83%	49%	39%	35%	40%	47%
	全参加率	75%	97%	92%	88%	84%	83%	100%	100%	100%	100%	100%	100%
2 回 目	対象者*		87	85	81	81	81	78	75	79	80	83	98
	参加者		61	50	56	51	48	43	38	75	31	39	37
	参加率		70%	59%	69%	63%	59%	55%	51%	95%	39%	47%	38%
	全参加率		95%	78%	85%	82%	83%	100%	100%	100%	100%	100%	100%

*職員 (委託を除く)

解説；医療安全研修会は全員参加が原則であり、年2回の開催が義務付けられている。補講を精力的に行っており最終参加率は100%に達している。

7. 福利厚生関係

平成 28 年度から衛生委員会を月 1 回定期的に開催した。

1) 夏季休暇取得率(%) (表 80)

	平成 28 年度	平成 29 年度	平成 30 年度	令和元 年度	令和 2 年度	令和 3 年度	令和 4 年度	令和 5 年度	令和 6 年度	令和 7 年度
医師	58.3	75	81.3	87.5	35	93.8	43.8	62.5	75	100
医療技術職	88.5	95	98.2	95.3	91.6	95.3	90	93.3	94.6	97.1
看護師	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100
事務職	85	87.5	93.8	87.5	87.5	93.8	100	100	100	100
臨時職員・会計 年度職員	96.3	100	100	100	100	100	99.1	100	97.2	100

解説；夏季休暇の取得率は、令和 6 年度までは医師の取得率が低かったが、令和 7 年度では全職種にわたり適切である。

2) 年次休暇取得日数 (表 81)

	平成 28 年度	平成 29 年度	平成 30 年度	令和 元 年度	令和 2 年度	令和 3 年度	令和 4 年度	令和 5 年度	令和 6 年度	令和 7 年度
医師	4.7	1.4	1.25	2.6	2.2	1	3.5	5.98	5.1	4.25
医療技術職	7.1	7.4	7.1	6.9	9.4	9.1	14.1	12.47	9.89	16.24
看護師	7	5.7	9.2	9.2	17.2	8.6	9.5	11.58	16.11	14.65
事務職	8.1	8.2	13.5	13.5	10.8	8.1	14.9	19.75	15.38	15.38
臨時職員・会計 年度職員	7	5.8	6.1	6.3	4.3	4.7	6.5	6.69	8	9.71

解説；年次休暇取得日数は、働き方改革の流れで増加傾向にあるが、令和 7 年度は、医師が低く改善が必要である。

3) 超過勤務 (表 82)

	平成 26 年度	平成 27 年度	平成 28 年度	平成 29 年度	平成 30 年度	令和 元 年度	令和 2 年度	令和 3 年度	令和 4 年度	令和 5 年度	令和 6 年度	令和 7 年度
時間外勤務	2,730	2,724	3,033	3,112	1,898	1,669	1,363	2,094	2,016	1,202	717	765
月 80 時間以上 の延人数	9	6	4	5	0	0	0	0	0	0	0	0
月 45 時間以上 の延人数	14	13	22	26	8	1	1	0	1	0	0	0

年 360 時間 以上の人数	1	1	2	3	3	0	0	0	0	0	0	0
-------------------	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---

解説；全体の超過勤務時間は減っており適切である。長時間勤務者（月 80 時間以上、月 45 時間以上、年 360 時間以上）はない。

8. その他

1) 職員のインフルエンザ予防接種率（表 83）

	令和 4 年度	令和 5 年度	令和 6 年度	令和 7 年度
在院全職員 (a)	79	77	102	104
対象職員* (b)	77	75	98	101
接種者 (c)	76	74	94	99
全接種率 (c/a)	96%	96%	92%	95%
修正接種率 (c/b)	99%	99%	96%	98%

*：妊娠者、有患者、アレルギー歴を有する者除外

参考；日本病院会（2024 年集計）

● 職員のインフルエンザ予防接種率の平均：87.2%

解説；当院の職員のインフルエンザ予防接種は 90%を超えており、全国集計より高く、適正である。

2) 人間ドック

喫煙率（表 84）

	平成 26 年度	平成 27 年度	平成 28 年度	平成 29 年度	平成 30 年度	令和 元 年度	令和 2 年度	令和 3 年度	令和 4 年度	令 和 5 年度	令和 6 年度	令和 7 年度
男性	26	27	28	29	30	元	2	3	4	5	6	7
受診者	153	153	142	150	128	123	117	113	111	119	104	139
喫煙者	50	46	52	59	45	38	48	41	36	37	36	41
喫煙率	32.7%	30.1%	36.6%	39.3%	35.2%	30.9%	41.0%	36.3%	32.4%	31.1%	34.6%	29.5%

	平成 26 年度	平成 27 年度	平成 28 年度	平成 29 年度	平成 30 年度	令和 元 年度	令和 2 年度	令和 3 年度	令和 4 年度	令 和 5 年度	令和 6 年度	令和 7 年度
女性	26	27	28	29	30	元	2	3	4	5	6	7
受診者	157	167	142	158	134	131	108	110	107	89	90	116
喫煙者	19	17	18	13	14	13	9	9	8	4	9	7
喫煙率	12.1%	10.2%	12.7%	8.2%	10.4%	9.9%	8.3%	8.2%	7.5%	4.5%	10.0%	6.0%

解説；令和7年度の男性の喫煙率は初めて30%を切り女性の喫煙率も低下傾向にあるが、男女とも目標とするレベルまでは喫煙率の減少は果たされていない。行政、議会、教育、企業など、オール西和賀の体制でギアを上げた禁煙活動が必要である。

食塩摂取量 (g/日) (表 85)

	平成 27 年度	平成 28 年度	平成 29 年度	平成 30 年度	令和 元 年度	令和 2 年度	令和 3 年度	令和 4 年度	令和 5 年度	令和 6 年度	令和 7 年度
男性	14.3	13.1	13	13.1	13.1	13	13.1	13.1	12.6	12.2	12.7
女性	12.7	12	11.8	11.3	11.4	12	11.3	11.4	11.4	11.3	11.2

解説；平成27年度から人間ドックでかるしおレシピを取り入れるなど減塩活動を強化した。その結果平成28年度は塩分摂取量が大きく減少した。しかし、その後は緩徐な減少に留まっている。食塩摂取量の基準（2025年版）である男性7.5g、女性6.5gに向けて、引き続き減塩活動の強化が必要である。

3) シニアドック (表 86)

年度	平成 27 年度	平成 28 年度	平成 29 年度	平成 30 年度	令和 元 年度	令和 2 年度	令和 3 年度	令和 4 年度	令和 5 年度	令和 6 年度	令和 7 年度
男	7	9	10	9	13	14	15	26	17	19	10
女	4	3	7	2	3	4	6	8	8	10	5
合計	11	12	17	11	16	18	21	34	25	29	15

解説；シニアドックは平成26年の当院の新築移転の際の住民との話し合いの中で誕生した。自己負担はあるが、一般のドックよりは安価であり、何より町の間ドックの内容が継続されるのがメリットである。最近増加傾向あったが令和7年度は低下しており分析が必要である。

9. 新規導入指数

身体拘束率 (表 87)

	令和6年度	令和7年度
拘束延日数/入院延日数	679/7713	222/7730
拘束率 (%)	8.80	2.87

解説；身体抑制の回避活動は令和7年度から開始した。令和7年度の身体拘束率は前年度に比べ大きく下がっており取り組みの効果が上がった。(表57)、(表73)に示す通り、令和7年度の転倒・転落は増加しておらず、身体抑制回避活動は安全に進められている。病棟スタッフに感謝する。